

小田急電鉄総合車両所移転計画
環境影響予測評価書案の概要

令和7年4月18日

神奈川県環境影響評価審査会
小田急電鉄総合車両所移転計画
環境影響予測評価書案の概要

2025年4月

小田急電鉄株式会社

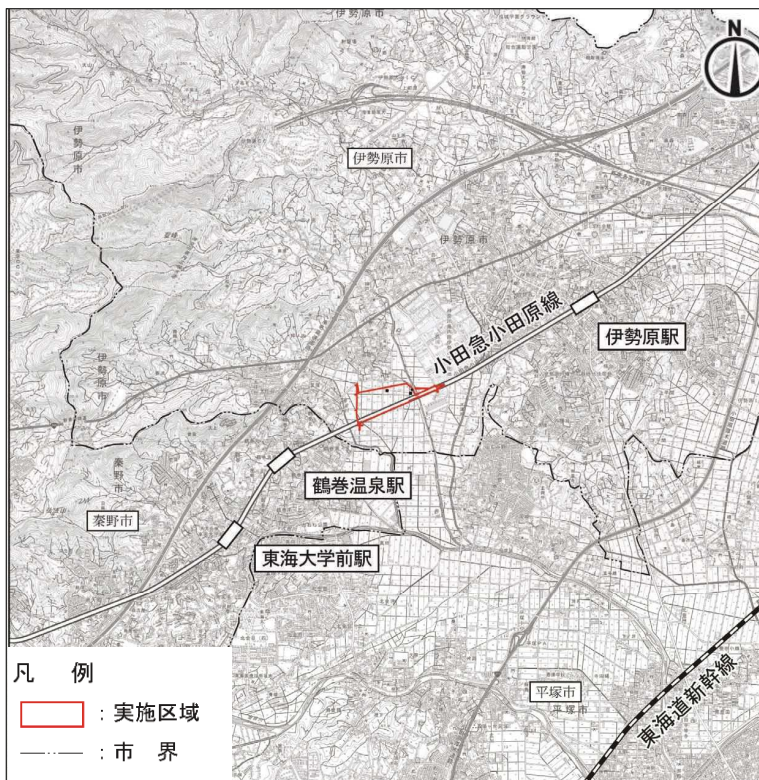
目次

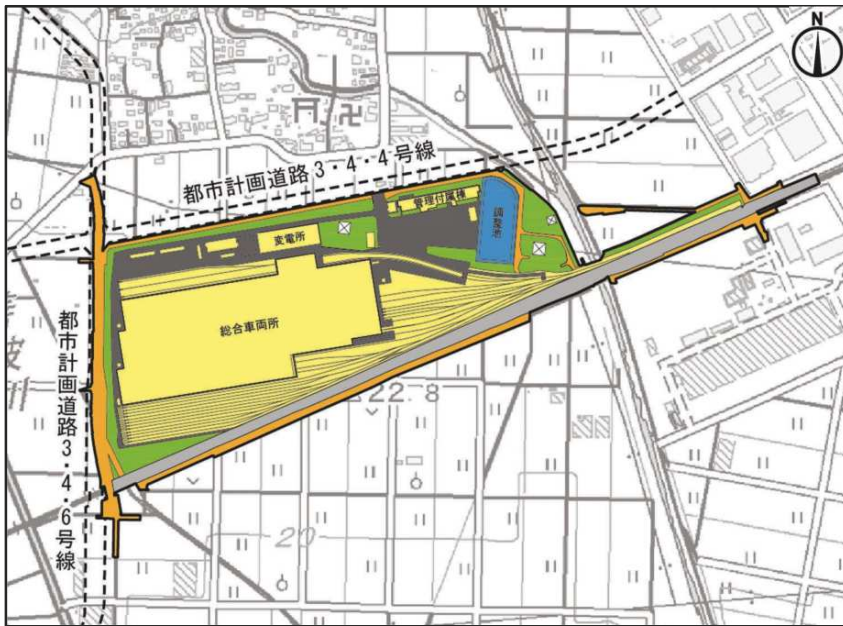
1. 計画内容
2. 工事計画
3. 環境影響評価の概要
 - 3.1 環境影響評価項目
 - 3.2 現地調査及び予測・評価結果
4. 事後調査計画の概要

名称	小田急電鉄総合車両所移転計画	
種類	操車場、検車場の建設	
面積※	約177,200㎡（付帯工事影響範囲含む）	
位置	伊勢原市南部（笠窪、串橋、神戸及び鈴川地内）	
事業者	名称	小田急電鉄株式会社
	住所	東京都渋谷区代々木二丁目28番12号

※実施計画書時点から、関係公共施設管理者等との協議や設計の深度化に伴い用途ごとの面積を見直したことにより、実施区域の面積は合計約174,000 m²（約17.4 ha）から約177,200 m²（約17.72 ha）に変更となりました。

実施区域の位置





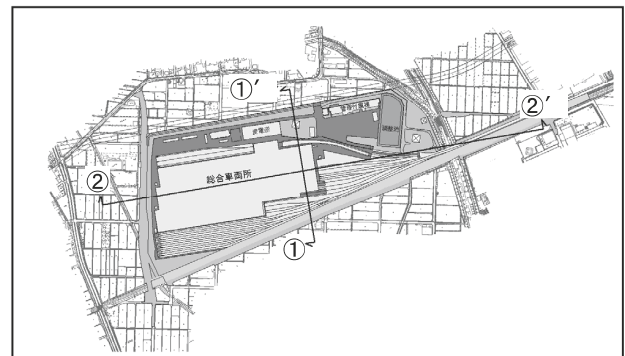
凡 例

- : 実施区域
- : 都市計画道路
(未整備区間)
- : 鉄道関連施設
- : 構内通路
- : 緑 地
- : 調整池
- : 線路用地
- : 付帯工事影響範囲

- 注 1) 図は既存の鉄塔が設置されている範囲を示す(実施区域範囲外)。
 2) 本図は予測評価書案時点におけるものであり、今後の計画の検討及び関係機関との協議等により変更となる可能性がある。

※実施計画書時点から、関係公共施設管理者等との協議や設計及び工事計画の深度化により、実施区域西側の付け替え道路を市道81号線に接続するとともに、実施区域南西側と東側の現道等との接続位置及び工事範囲を見直したことから、実施区域の範囲が変更となりました。

位置図



①—①' 断面図



②—②' 断面図

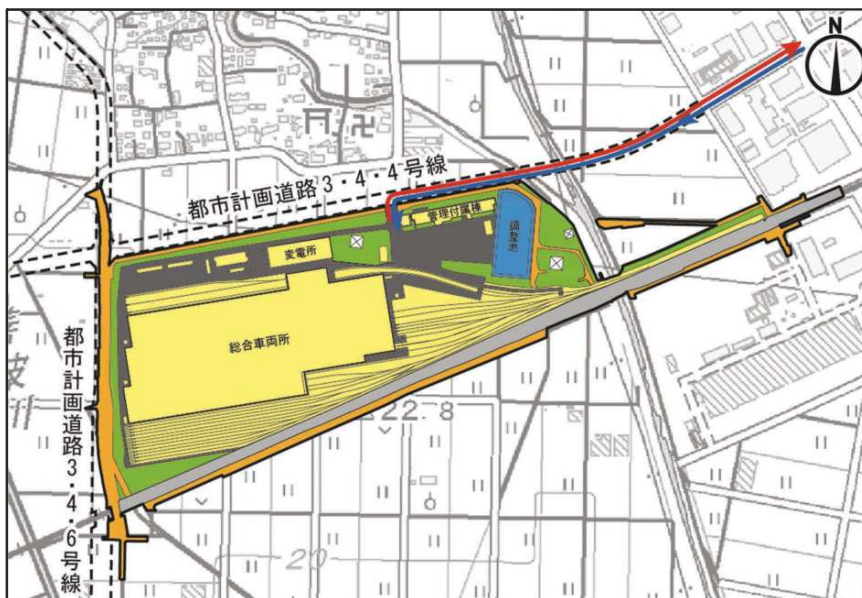


注) 本図は予測評価書案時点におけるものであり、今後の計画の検討及び関係機関との協議等により変更となる可能性があります。

内訳	開発面積	面積比
鉄道関連施設※	約 87,800㎡	49.5%
構内通路	約 24,400㎡	13.8%
緑地	約 21,000㎡	11.9%
調整池	約 5,300㎡	3.0%
線路用地	約 16,400㎡	9.3%
付帯工事影響範囲	約 22,300㎡	12.6%
合計	約 177,200㎡	100.0%

※鉄道関連施設とは、総合車両所（付帯線路含む）、管理付属棟及び変電所等です。

供用後車両走行ルート



凡 例

- : 実施区域
- : 都市計画道路 (未整備区間)
- : 主な走行ルート (入場)
- ← : 主な走行ルート (出場)

2. 工事計画

小田急電鉄株式会社

11

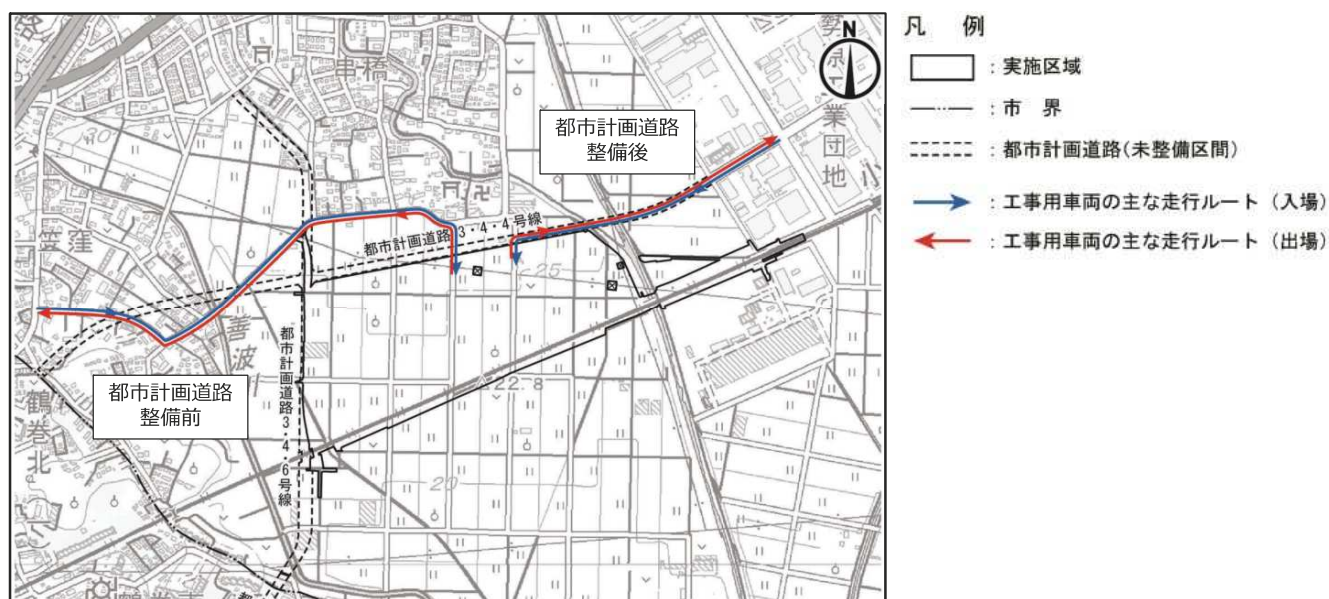
工事工程（案）

【予測評価書案 p.4-2-1】

工事等	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	2031年度	2032年度	2033年度
機能補償工事 (農業用排水路・ 下水・道路付け替え)							
盛土・擁壁・ 基礎工事							
車両所工事 (建築・軌道・機械・ 電気工事)							
操業							

12

工事等	工事概要
機能補償工事 (道路・農業用排水路・ 下水管付け替え)	総合車両所の造成に伴い支障する各種基盤施設の機能補償を行います。主な機能補償の対象としては道路、農業用排水路、下水管です。
盛土・擁壁・基礎工事	総合車両所として整備する範囲は、小田急線の鈴川橋梁（既存）と同程度の高さまで造成し、調整池や付属設備棟のある範囲については、ほぼ現地盤と同等程度の高さで設定します。
車両所工事 (建築・軌道・機械・ 電気工事)	車両所（工場、変電所等）の鉄骨建方を行い、床コンクリートを打設し、屋根、外装及び内部の仕上げ等を行います。



3. 環境影響評価の概要

3.1. 環境影響評価項目

区分		工事の実施			土地又は工作物及び供用		
評価項目	環境影響要因	建設機械の稼働	工事用車両の走行	造成等の実施	施設の存在	施設の稼働	関係車両の走行
大気汚染	浮遊粒子状物質	●	●			●	
	二酸化窒素	●	●			●	
	粉じん			●			
水質汚濁				●		●	
騒音・低周波音	騒音	●	●			●	
振動		●	●			●	
廃棄物・発生土	廃棄物			●		●	
	発生土			●			
水象	河川			●		●	
植物・動物・生態系	植物			●			
	動物			●			
	水生生物			●			
	生態系			●			
景観					●		
レクリエーション資源			●				
温室効果ガス		●	●			●	
安全	危険物等					●	
	交通		●				

注) ●：評価項目として選定した項目



3.2. 環境影響予測・評価の結果

大気汚染

【工事の実施】

- ① 建設機械の稼働に伴う大気汚染
- ② 工事用車両の走行に伴う大気汚染
- ③ 造成等の実施に伴う大気汚染

【供用後】

- ④ 施設の稼働に伴う大気汚染

小田急電鉄株式会社

19

① 建設機械の稼働に伴う大気汚染

【予測評価書案 p.5-2-53～54】

■ 日平均値

予測項目	出現地点	将来濃度	評価基準
浮遊粒子状物質	実施区域南側 敷地境界	0.035 mg/m ³	0.10mg/m ³ 以下
二酸化窒素	実施区域南側 敷地境界	0.043 ppm	0.04～0.06ppm のゾーン内 またはそれ以下

予測対象時点：工事開始後17～28ヶ月目（12ヶ月間）

※建設機械の稼働に伴う大気汚染の影響が最大となる1年間

建設機械の稼働は、実施区域周辺的生活環境に著しい影響を及ぼすことなく、**評価基準等との整合は図られている**と評価します。

■ 主な環境保全のための措置

- ✓ **工事の平準化**を図ることにより大気汚染物質が集中的に排出されることを防止します。
- ✓ **建設機械の適切な点検・整備**を行います。
- ✓ 工事に際しては、**排出ガス対策型建設機械**を採用します。
- ✓ ドライバーへの安全教育の徹底により**空ぶかしの禁止、不要な運転をできる限り防止**し、必要以上に排ガスが発生することを防ぎます。

以上のことから、**実行可能な範囲でできる限り回避若しくは低減が図られている**と評価します。

②工事用車両の走行に伴う大気汚染



【予測対象時期】

No.1 : 27ヶ月目

No.2 : 19ヶ月目

※それぞれ工事用車両台数がピークとなる月

凡 例

□ : 実施区域

— : 市 界

----- : 都市計画道路(未整備区間)

● : 予測地点

→ : 工事用車両の主な走行ルート(入場)

← : 工事用車両の主な走行ルート(出場)

■ 日平均値（浮遊粒子状物質）

地点番号	将来濃度	評価基準
No.1	0.031 mg/m ³	0.10mg/m ³ 以下
No.2	0.031 mg/m ³	

■ 日平均値（二酸化窒素）

地点番号	将来濃度	評価基準
No.1	0.024 ppm	0.04～0.06ppm の ゾーン内 またはそれ以下
No.2	0.025 ppm	

工事用車両の走行は、実施区域周辺の生活環境に著しい影響を及ぼすことなく、**評価基準等との整合は図られている**と評価します。

■ 主な環境保全のための措置

- ✓ 工事用車両の走行が集中しないよう**工事の平準化**に努めます。
- ✓ **速度や積載量等の交通規制及び指定走行ルート、標示規制等を遵守**するよう指導します。
- ✓ 工事用車両の**アイドリングストップ・エコドライブ**を徹底します。
- ✓ 建設中の**構内道路への散水や鉄板の敷設等**を行います。

以上のことから、**実行可能な範囲でできる限り回避若しくは低減が図られている**と評価します。

■ 予測結果（粉じんの発生頻度）

伊勢原市役所 測定局	風速5.5m/s以上が 出現した時間数		風速5.5m/s以上が 出現した日数	
	時間数	出現頻度	日数	出現頻度
年間	33時間	0.4%	19日	5.2%

事業計画地において風速5.5m/s以上の風が出現した時間数は年間33時間（出現頻度0.4%）、風速5.5m/s以上の風が出現した日数は年間19日（出現頻度5.2%）でした。

（参考）ビューフォート風力階級表（一部抜粋）

風力 階級	風速 (m/s)	説明（陸上）
0	0.0～0.2	静穏、煙はまっすぐに昇る。
1	0.3～1.5	風向は、煙がなびくのでわかるが風見には感じない。
2	1.6～3.3	顔に風を感じる。木の葉が動く。風見も動き出す。
3	3.4～5.4	木の葉や細い小枝がたえず動く。軽い旗が開く。
4	5.5～7.9	砂ほこりが立ち、紙片が舞い上がる。小枝が動く。
5	8.0～10.7	葉のあるかん木がゆれはじめる。池や沼の水面に波がしら立つ。

■ 主な環境保全のための措置

- ✓ 工事用車両による粉じんについて、**実施区域内に洗車設備等を設け車輪等の洗浄**を行います。
- ✓ **出入口の散水等**を行うほか、**場内の制限速度**を設けることで飛散防止に努めます。
- ✓ 粉じんの発生が予想される作業を行う場合や**乾燥時、強風時**においては、**適宜散水**を行います。
- ✓ **工事の平準化により建設機械の集中稼働を避け、効率的な稼働**に努めます。

以上のことから、**実行可能な範囲**でできる限り回避若しくは**低減が図られている**と評価します。

■ 二酸化窒素の長期平均濃度（日平均値）

出現地点	将来濃度	評価基準
実施区域 南西側約160m	0.026 ppm	0.04～0.06ppm のゾーン内 またはそれ以下

■ 二酸化窒素の短期平均濃度（1時間値）

予測ケース	将来濃度	評価基準
大気安定度不安定時	0.0011 ppm	0.1～0.2ppm以下 (短期暴露指針値)
ダウンウォッシュ時	0.0038 ppm	

施設の稼働は、長期平均濃度、短期平均濃度ともに、実施区域周辺の生活環境に著しい影響を及ぼすことなく、**評価基準等との整合は図られている**と評価します。

■ 主な環境保全のための措置

- ✓ 車両の塗装を乾燥させるための燃焼機器については、**できる限りNOx 排出濃度の低い燃焼機器やエネルギー効率の高い燃焼機器の設置**に努めます。
- ✓ 熱源施設等が正常に稼働するよう**定期的な点検・整備等の適切な維持管理**に努めます。

以上のことから、**実行可能な範囲でできる限り回避若しくは低減が図られている**と評価します。

水質汚濁・水象

【工事の実施】

①造成等の実施に伴う水質汚濁・水象

【供用後】

②施設の稼働に伴う水質汚濁・水象

小田急電鉄株式会社

29

①造成等の実施に伴う水質汚濁・水象 【予測評価書案 p.5-2-57】

鈴川西側区域

実施区域内に沈砂池及び仮設管・側溝を設置

鈴川東側区域

別途仮設沈砂池及び仮設管・側溝を設置

- 排水を一時的に貯留し、土砂を十分に沈降させた後、**上澄み水を公共用水域に排水**します。
- 公共用水域への排水は、水素イオン（pH）濃度及び浮遊物質（SS）等の測定により、**水質異常時にはpH調整、凝集沈殿等の適切な処理**を行います。
- 工事中の雨水排水量は、沈砂池を設置し排水量の調整を図ることで、**放流先河川の許容放流量以下**とします。

以上のことから、実行可能な範囲でできる限り回避若しくは低減が図られていると評価します。



雨水排水

- ✓ 実施区域内に降る雨は、地形上集水が不可能な範囲を除き、実施区域内の調整池で一時的に貯留の上、公共用水域に排水します。
- ✓ 調整池にはオイルトラップの設置を行うなど、水質への影響の低減を図ります。
- ✓ 雨水排水量は、放流先河川の許容放流量以下とします。

汚水排水

- ✓ 総合車両所で実施する検査・修繕作業による排水は、屋外で実施予定の自動洗浄作業も含めて雨水排水系統とは区画を分けて集水し、工業廃水処理設備で排水に溶け込んだ洗浄剤などの化学物質を処理後、生活排水と併せて公共下水道に排水します。

実行可能な範囲でできる限り回避若しくは低減が図られていると評価します。



騒音・振動

【工事の実施】

- ① 建設機械の稼働に伴う建設作業騒音・振動
- ② 工事用車両の走行に伴う道路交通騒音・振動

【供用後】

- ③ 施設の稼働に伴う騒音・振動

①建設機械の稼働に伴う騒音・振動

■ 建設作業騒音

【予測評価書案 p.5-2-101,121】

予測時期	予測結果	評価基準
工事開始後27ヶ月目	80dB	85dB

■ 建設作業振動

予測時期	予測結果	評価基準
工事開始後27ヶ月目	72dB	75dB

建設機械の稼働は、実施区域周辺的生活環境に著しい影響を及ぼすことなく、**評価基準等との整合は図られている**と評価します。

①建設機械の稼働に伴う騒音・振動

■ 主な環境保全のための措置

【予測評価書案 p.5-2-101～121】

- ✓ 建設機械等は、**低騒音型・低振動型のものを選定**します。
- ✓ **建設機械の配置を考慮**し、1か所での作業が集中しないよう発生する騒音及び振動の低減に努めます。
- ✓ 実施区域境界付近の作業においては、**防音パネルを設ける**等の対策を講じます。

以上のことから、**実行可能な範囲**でできる限り回避若しくは**低減が図られている**と評価します。

②工事用車両の走行に伴う騒音・振動

【予測評価書案 p.5-2-90】



【予測対象時期】

No.1：27ヶ月目

No.2：19ヶ月目

※それぞれ工事用車両台数がピークとなる月

凡 例

□：実施区域

——：市 界

-----：都市計画道路（未整備区間）

●：予測地点

→：工事用車両の主な走行ルート（入場）

←：工事用車両の主な走行ルート（出場）

②工事用車両の走行に伴う騒音・振動

【予測評価書案 p.5-2-102】

■ 道路交通騒音

予測地点		類型	時間区分	予測結果	評価基準等
No.1	北側道路端	B	昼間	67dB	65dB
	南側道路端	B	昼間	67dB	65dB
No.2	北側道路端	A	昼間	65dB	65dB (現況値)
	南側道路端	B	昼間	65dB	65dB

※昼間：6時～22時

- No.1は、評価基準を超過しますが、**環境保全対策を講じる**ことに加え、必要に応じて**更なる騒音対策の実施**により影響の低減に努めます。
- No.2北側は、**現況**の騒音レベルがすでに**環境基準（60dB）を超過**していることから、「現況に著しい影響を及ぼさないこと（**現況非悪化**）」を評価基準とし、No.2南側は、環境基準（65dB）を評価基準としました。いずれも**評価基準等との整合が図られている**と評価します。

②工事用車両の走行に伴う騒音・振動

■ 道路交通振動

【予測評価書案 p.5-2-122】

予測地点		区域	時間区分	予測結果	評価基準等
No.1	北側道路端	第1種	昼間	48dB	65dB
	南側道路端	第1種	昼間	48dB	65dB
No.2	北側道路端	第1種	昼間	38dB	65dB
	南側道路端	第1種	昼間	38dB	65dB

※昼間：8時～19時

No.1、No.2ともに、**評価基準等と整合が図られている**と評価します。

②工事用車両の走行に伴う騒音・振動

■ 主な環境保全のための措置

【予測評価書案 p.5-2-102,122】

- ✓ 工事用車両が一般道を走行する際には、**車両の整備・点検を適切に行う**とともに、**積載重量を遵守**します。また、**規制速度を遵守**するようドライバーに周知・徹底します。
- ✓ 工事用車両が集中しないよう**工事の平準化**に努めます。
- ✓ 実施区域を走行する車両による騒音を低減するため、**場内の制限速度を設けます**。

以上のことから、**実行可能な範囲でできる限り回避若しくは低減が図られている**と評価します。

③施設の稼働に伴う騒音・振動

■ 施設騒音

【予測評価書案 p.5-2-104,124】

予測結果	時間区分	評価基準等
50dB	8時～18時	55dB
	18時～23時	50dB

■ 施設振動

予測結果	時間区分	評価基準等
48dB	8時～19時	65dB
	19時～8時	55dB

騒音・振動ともに、**評価基準等と整合が図られている**と評価します。

③施設の稼働に伴う騒音・振動

■ 主な環境保全のための措置

【予測評価書案 p.5-2-104,124】

✓ 空気圧縮機等は、**低騒音・低振動の機器を採用**するとともに、騒音及び振動の著しい機器は**できる限り計画地敷地境界からの離隔を確保して設置**するなど、適切な対策を行います。

✓ **防音を考慮した外壁使用や開口部の計画**を行います。

以上のことから、**実行可能な範囲でできる限り回避若しくは低減が図られている**と評価します。

廃棄物・発生土

【工事の実施】

- ①造成等の実施に伴う建設産業廃棄物
- ②造成等の実施に伴う建設発生土

【供用後】

- ③施設の稼働に伴う産業廃棄物

小田急電鉄株式会社

41

①②造成等の実施に伴う廃棄物・発生土

【予測評価書案 p.5-2-130,132,135,136】

■ 予測結果

種類	発生量	備考
アスファルトガラ	約2,060 t	既存道路の撤去
コンクリートガラ	約2,740 t	農業用排水路U字側溝の撤去
合計	約4,800 t	—

発生土	約69,000 t	実施区域内の表層除去
-----	-----------	------------

- ✓ 「神奈川県建設リサイクル法実施指針」に示される特定建設資材廃棄物の再資源化等の目標に基づき、**コンクリートガラ・アスファルトガラの再資源化100%を目標**とします。
- ✓ 発生土については、実施区域内での地盤改良等で**可能な限り有効利用**を図ります。

以上のことから、**実行可能な範囲**でできる限り回避若しくは低減が**図られている**と評価します。

42

■ 予測結果

【予測評価書案 p.5-2-37～38】

種類	発生量	主な処理・処分方法
紙くず	18.8 t/年	廃棄
廃プラスチック類	17.9 t/年	再資源化
金属くず	11.4 t/年	再資源化
ガラス陶磁器くず	2.3 t/年	再資源化
汚泥	54.3 t/年	再資源化
廃油	9.1 kL/年	再資源化
木くず	11.6 t/年	再資源化
石綿廃棄物	0.6 t/年	廃棄
合 計	116.9 t/年、9.1 kL/年	—

✓ 現在の大野総合車両所では2023年度における廃棄物の再資源化率は96.8%であり、新たな車両所でも同程度の再資源化を図る計画です。

以上のことから、実行可能な範囲でできる限り回避若しくは低減が図られていると評価します。



植物・動物・生態系

【工事の実施】

- ①造成等の実施に伴う植物への影響
- ②造成等の実施に伴う動物への影響
- ③造成等の実施に伴う水生生物への影響
- ④造成等の実施に伴う生態系への影響

①造成等の実施に伴う植物への影響

【予測評価書案 p.5-2-160,163】

■ 重要な植物種の予測結果

種名	生育地への影響		影響の程度
	土地の 改変	水の 濁り	
ヒメミズワラビ	あり	あり	地域個体群の一部に影響が生じる可能性がある。
ナチシダ	なし	なし	地域個体群に影響は生じない。
ミズタカモジ	あり	あり	地域個体群の一部に影響が生じる可能性がある。
ウスゲチョウジタデ	あり	あり	地域個体群の一部に影響が生じる可能性がある。

- ✓ 工事中の雨水排水は、沈砂池等において一時貯留し濁水の土砂を十分に沈降させた後、**上澄み水を公共用水域に排水**することから「**水の濁り**」による生育地への影響を「あり」と予測した種等に配慮します。

以上のことから、造成等の実施による影響は、**実行可能な範囲**でできる限り回避若しくは低減が図られていると評価します。



②造成等の実施に伴う動物への影響

【予測評価書案 p.5-2-181～182】

■ 重要な動物の予測結果

種名		生息地への影響		影響の程度
		土地の 改変	水の 濁り	
哺乳類	キツネ、ニホンイタチ	あり	—	地域個体群は残される。
	カヤネズミ	あり	—	地域個体群の一部に影響が生じる可能性がある。
鳥類	コチドリ、オオタカ、アカハラ	なし	—	地域個体群に影響は生じない。
	ヒクイナ、モズ 他7種	あり	—	地域個体群は残される。
	オオヨシキリ	あり	—	地域個体群の一部に影響が生じる可能性がある。
爬虫類	ヒガシニホントカゲ 他3種	あり	—	地域個体群は残される。
	ニホンスッポン	なし	あり	地域個体群の一部に影響が生じる可能性がある。
両生類	ムカシツチガエル、トウキョウダルマガエル、シュレーゲルアオガエル	あり	あり	地域個体群の一部に影響が生じる可能性がある。
昆虫類	エノキカイガラキジラミ 他6種	なし	—	地域個体群に影響は生じない。
	ショウリョウバッタモドキ 他5種	あり	—	地域個体群は残される。
	ヤマサナエ 他8種	なし	あり	地域個体群の一部に影響が生じる可能性がある。
	ホソミイトトンボ 他7種	あり	あり	地域個体群の一部に影響が生じる可能性がある。
その他	ナガオカモノアラガイ	あり	—	地域個体群は残される。

②造成等の実施に伴う動物への影響

【予測評価書案 p.5-2-205】

- ✓ カヤネズミ及びオオヨシキリの繁殖期を考慮した工事時期の調整に努めます。
- ✓ 改変区域内の水田や水路等で繁殖すると考えられる重要な両生類及び昆虫類は、工事の実施前に捕獲し、近傍の類似環境に移設します。
 両生類：ムカシツチガエル、トウキョウダルマガエル、シュレーゲルアオガエル
 昆虫類：ホソミイトトンボ 他7種
- ✓ 工事中の雨水排水は、沈砂池等において一時貯留し濁水の土砂を十分に沈降させた後、上澄み水を公共用水域に排水することで、造成工事に伴う水の濁りによる影響が生じる可能性があるとして予測した種等に配慮します。

以上のことから、造成等の実施による影響は、実行可能な範囲でできる限り回避若しくは低減が図られていると評価します。



カヤネズミ（球巢）



オオヨシキリ



ムカシツチガエル



ヤマサナエ（ヤゴ）

③造成等の実施に伴う水生生物への影響

■ 重要な魚類の予測結果

【予測評価書案 p.5-2-215】

種名	生息地への影響		影響の程度
	土地の 改変	水の 濁り	
アブラハヤ	あり	あり	地域個体群の一部に影響が生じる可能性がある。
ウグイ	なし	あり	地域個体群の一部に影響が生じる可能性がある。
ヒガシシマドジョウ	あり	あり	地域個体群の一部に影響が生じる可能性がある。
ホトケドジョウ	なし	あり	地域個体群の一部に影響が生じる可能性がある。
ナマズ	あり	あり	地域個体群の一部に影響が生じる可能性がある。
カジカ	なし	あり	地域個体群の一部に影響が生じる可能性がある。
オオヨシノボリ	なし	あり	地域個体群の一部に影響が生じる可能性がある。
スミウキゴリ	なし	あり	地域個体群の一部に影響が生じる可能性がある。

■ 重要なベントス（底生生物）の予測結果

種名	生息地への影響		影響の程度
	土地の 改変	水の 濁り	
マルタニシ	あり	あり	地域個体群の一部に影響が生じる可能性がある。
ヒラマキミズマイマイ	あり	あり	地域個体群の一部に影響が生じる可能性がある。

③造成等の実施に伴う水生生物への影響

- ✓ 改変区域内の水田や水路等で繁殖すると考えられる重要な魚類及びベントス（底生生物）は、工事の実施前に捕獲し、近傍の類似環境に移設します。
- ✓ 工事中の雨水排水は、沈砂池等において一時貯留し濁水の土砂を十分に沈降させた後、上澄み水を公共用水域に排水することで、造成工事に伴う水の濁りによる影響が生じる可能性があると予測した種等に配慮します。

以上のことから、造成等の実施による影響は、実行可能な範囲でできる限り回避若しくは低減が図られていると評価します。



ホトケドジョウ



カジカ



マルタニシ

④造成等の実施に伴う生態系への影響

◆上位性の注目種・群集等の予測結果

種名	生息地への影響		影響の程度
	土地の 改変	水の 濁り	
ニホンイタチ	あり	—	生息環境は維持される。
ダイサギ	あり	—	生息環境は維持される。
モズ	あり	—	生息環境は維持される。

◆典型性の注目種・群落等の予測結果

種名	生息地への影響		影響の程度
	土地の 改変	水の 濁り	
アカネズミ	あり	—	生息環境は維持される。
スズメ	あり	—	生息環境は維持される。
ニホンアマガエル	あり	あり	生息環境の一部に影響が生じる可能性がある。
バッタ類	あり	—	生息環境は維持される。
アブラハヤ	あり	あり	生息環境の一部に影響が生じる可能性がある。
ヤゴ（トンボの幼虫）	あり	あり	生息環境の一部に影響が生じる可能性がある。
水田雑草群落	あり	—	生育環境は維持される。

- ✓ 改変区域内の水路に生息する水生生物に係る注目種（ヤゴ）は、工事の実施前に捕獲し、近傍の類似環境に移設する。
- ✓ 工事中の雨水排水は、沈砂池等において一時貯留し濁水の土砂を十分に沈降させた後、**上澄み水を公共用水域に排水**することで、造成工事に伴う**水の濁りによる影響が生じる可能性があると予測した種等に配慮**します。

以上のことから、造成等の実施による影響は、**実行可能な範囲でできる限り回避若しくは低減が図られている**と評価します。



【上位性】
モズ



【典型性】
ニホンアマガエル



【典型性】
アブラハヤ



【典型性】
水田雑草群落



景観

【供用後】

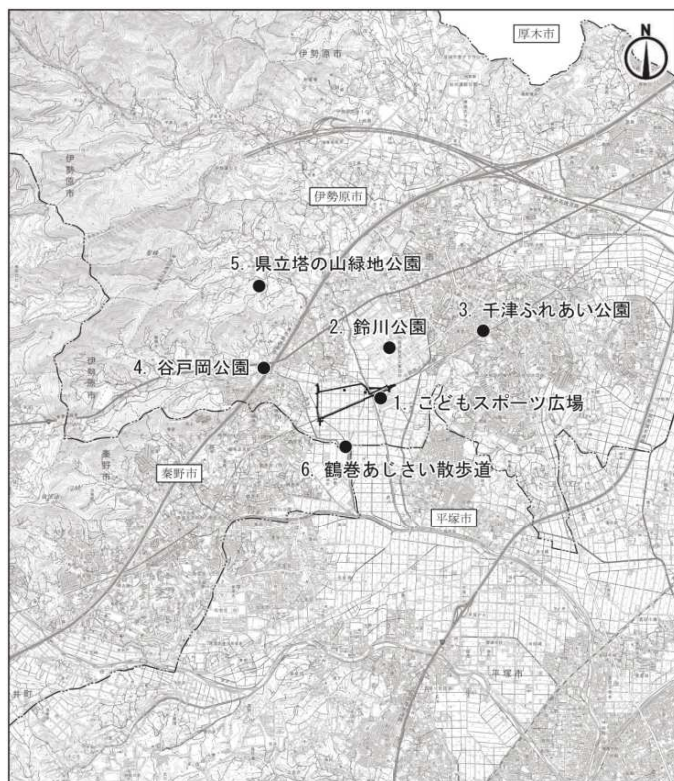
①施設の存在による景観への影響

①施設の存在による景観への影響

【予測評価書案 p.5-2-235】



現地調査及び予測地点



凡 例

- : 実施区域
- : 市 界
- : 調査・予測地点

53

Copyright 2025 Odakyu Electric Railway Co., Ltd. All Rights Reserved.

①施設の存在による景観への影響

【予測評価書案 p.5-2-247】



No.1 こどもスポーツ広場（実施区域中心から東側約400m）

現況



建設完了後



注）建設完了後の写真の表現は、現時点のイメージです。

54

Copyright 2025 Odakyu Electric Railway Co., Ltd. All Rights Reserved.

No.6 鶴巻あじさい散歩道（実施区域中心から南側約700m）

現況



建設完了後



注）建設完了後の写真の表現は、現時点のイメージです。

■ 主な環境保全のための措置

- ✓ 総合車両所の外壁等の色彩は、地域特性を配慮しつつ、周辺環境に溶け込みやすい色彩の使用により、**自然景観や市街地のまちなみとの調和を図った施設設備を進める計画**です。
- ✓ 総合車両所の外観への配慮や緑地の整備によって景観への違和感を軽減し、良好な景観の形成に努めることから、「伊勢原市景観条例」に基づく**事業者の責務及び「伊勢原市景観計画」の良好な景観形成を推進する基本理念や目標との整合性が図られていると予測**します。

以上のことから、**実行可能な範囲でできる限り回避若しくは低減が図られていると評価**します。

レクリエーション資源

【工事の実施】

①工事用車両の走行に伴うレクリエーション資源への影響

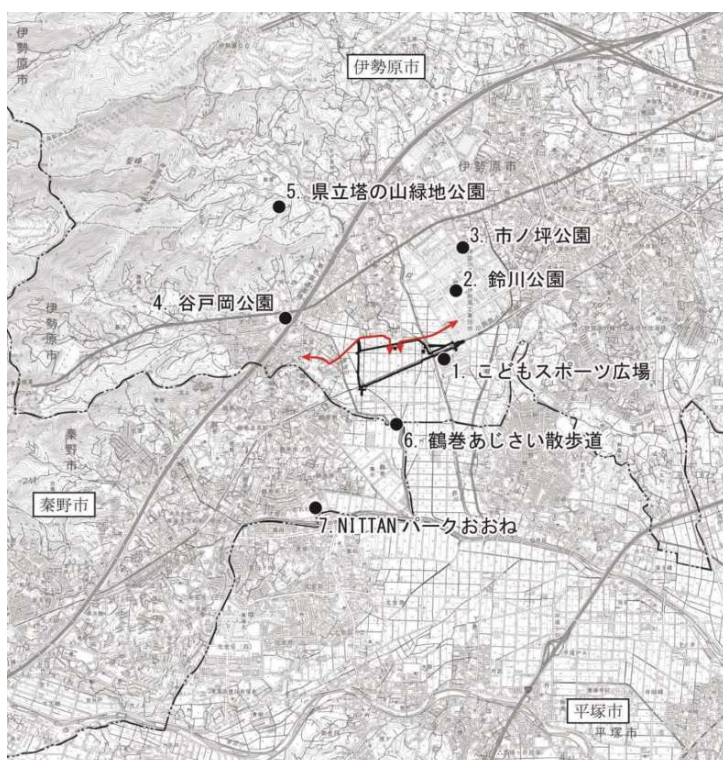
小田急電鉄株式会社

57

①工事用車両の走行に伴うレクリエーション資源への影響

現地調査及び工事用車両の走行ルート

【予測評価書案 p.5-2-268～269】



凡 例

- : 実施区域
- : 市 界
- : 調査・予測地点
- ↔ : 工事用車両の主な走行ルート

✓ 工事用車両の走行により、交通量の増加が見込まれますが、**工事の平準化**を行い、**走行の時期や時間の分散**に努めるなどの環境保全対策を講じます。

以上のことから、**実行可能な範囲**でできる限り回避若しくは**低減**が図られていると評価します。

温室効果ガス

【工事の実施】

- ①建設機械の稼働に伴う温室効果ガス
- ②工事用車両の走行に伴う温室効果ガス

【供用後】

- ③施設の稼働に伴う温室効果ガス

小田急電鉄株式会社

59

①②工事の実施に伴う温室効果ガス

【予測評価書案 p.5-2-281】

■予測結果

項 目	温室効果ガス排出量
建設機械の稼働	19,238 t-CO ₂
工事用車両の走行	1,603 t-CO ₂

- ✓ 建設機械の稼働においては、**空ぶかしの禁止や不要な運転をできる限り防止**し、必要以上に温室効果ガスが発生することを防ぐなどの環境保全対策を講じます。
- ✓ 工事用車両の走行においては、**工事用車両のアイドリングストップ・エコドライブを徹底**するなどの環境保全対策を講じます。

以上のことから、**実行可能な範囲でできる限り回避若しくは低減が図られている**と評価しました。

③施設の稼働に伴う温室効果ガス

■予測結果

【予測評価書案 p.5-2-282】

項 目	温室効果ガス排出量
施設の稼働	932.2 t-CO ₂

- ✓ 施設の稼働においては、導入可能な範囲で効率的な省エネルギー機器を選択し、エネルギー使用量の削減を図る環境保全対策を講じます。

以上のことから、実行可能な範囲でできる限り回避若しくは低減が図られていると評価します。

安全（危険物等）

【供用後】

①施設の稼働に伴う危険物等の影響

類似施設：大野総合車両所（現施設）

災害時の危険物等による事故及びトラブルの発生は確認されていません。

- ✓ 新たな車両所等においても、現在の大野総合車両所と同様の危険物等の取扱い及び貯蔵を行う計画であり、**危険物等の漏洩に伴う火災等に係る安全性は確保される**ものと予測します。

以上のことから、**実行可能な範囲**でできる限り回避若しくは低減が図られてい**る**と評価します。



危険物屋内貯蔵所



保管状況



安全（交通）

【工事の実施】

①工事用車両の走行に伴う交通への影響

①工事用車両の走行に伴う交通への影響



【予測対象時期】

No.1 : 27ヶ月目

No.2 : 19ヶ月目

※それぞれ工事用車両台数がピークとなる月

凡 例

□ : 実施区域

—— : 市 界

----- : 都市計画道路(未整備区間)

○ : 予測地点

→ : 工事用車両の主な走行ルート(入場)

← : 工事用車両の主な走行ルート(出場)

①工事用車両の走行に伴う交通への影響

◆予測結果

予測地点	時間帯	交差点需要率 (増加分)	限界需要率
No.1	8～9時台	0.359 (0.057)	0.875
No.2	7～8時台	0.491 (0.028)	0.941

- ✓ 工事用車両の走行による交通量の増加が、実施区域周辺道路の交通混雑に著しい影響を引き起こすことはないと予測します。
- ✓ 歩行者等の通行に伴う交通安全については、関係者に対して交通法規の遵守の指導を徹底するなどの環境保全対策を講じます。

以上のことから、**実行可能な範囲**でできる限り回避若しくは低減が図られていると評価します。

4. 事後調査計画の概要

小田急電鉄株式会社

67

事後調査項目の選定

【予測評価書案 p.5-4-1～2】

区分		工事の実施			土地又は工作物及び供用		
環境影響要因		建設機械の稼働	工事用車両の走行	造成等の実施	施設の存在	施設の稼働	関係車両の走行
評価項目							
大気汚染	浮遊粒子状物質	×	×	—	—	×	—
	二酸化窒素	×	×	—	—	×	—
	粉じん	—	—	×	—	×	—
水質汚濁※		—	—	×	—	×	—
騒音・低周波音	騒音	×	○	—	—	○	—
振動		×	○	—	—	○	—
廃棄物・発生土	廃棄物	—	—	×	—	×	—
	発生土	—	—	×	—	—	—
水象※		—	—	×	—	×	—
植物・動物・生態系	植物	—	—	×	—	—	—
	動物	—	—	○	—	—	—
	水生生物	—	—	○	—	—	—
	生態系	—	—	○	—	—	—
景観		—	—	—	×	—	—
レクリエーション資源		—	×	—	—	—	—
温室効果ガス		×	×	—	—	×	—
安全	危険物等	—	—	—	—	×	—
	交通	—	×	—	—	—	—

注1) ○：事後調査を実施する項目、×：事後調査を実施しない項目、—：予測評価を実施していない項目

注2) ※：水質汚濁、水象については、「予測精度が十分でなく検証を要するもの」、「環境保全対策の効果に時間を要するか又は効果に係る知見が不十分」等に該当しないため事後調査は実施しないものの、排水の定期的なモニタリング等の実施により、水質及び水量の管理を行う計画です。

68

Copyright 2025 Odakyu Electric Railway Co., Ltd. All Rights Reserved.

● 事後調査項目

評価項目	区分	事後調査項目
騒音	工事中	工事用車両の走行
	供用後	施設の稼働
振動	工事中	工事用車両の走行
	供用後	施設の稼働
動物	工事中	造成等の実施
水生生物	工事中	造成等の実施
生態系	工事中	造成等の実施

● 事後調査方法等

評価項目	区分	事後調査項目	調査地域・地点	調査時期等	調査方法
騒音・振動	工事中	工事用車両の走行	工事用車両走行ルート2地点	実施区域西側走行ルート、東側走行ルートを使用するそれぞれの走行台数が最大となる時期	現地調査
	供用後	施設の稼働	実施区域北側敷地境界1地点（最大値出現地点）	施設の稼働が定常の状態となる時期	現地調査
動物	工事中	造成等の実施	【工事実施前】 改変区域	工事実施前及び 工事実施中3年間	捕獲・移設 モニタリング調査
水生生物	工事中	造成等の実施			
生態系	工事中	造成等の実施			

事後調査対象種

造成等の実施に伴い、工事開始前に水田及び用水路で捕獲・移設を行った重要な両生類、昆虫類（水生昆虫）、魚類、ベントス（底生生物）及び生態系における注目種・群集等を指します。